

## 編纂事業の進捗状況

廣 木 尚

### はじめに

百五十年史編纂の進捗状況報告の五回目である。今回は二〇一四年一月から二〇一五年一月末までの状況を報告する。以下、例年同様、編纂委員会と編纂専門委員会の議論を中心に説明していきたい。

#### 一 二〇一四年度後期の状況

##### (一) 議題・会場・日程

二〇一四年度後期(二〇一四年一月～二〇一五年三月)は編纂委員会が一回、編纂専門委員会が二回行われた。まず、

各回の日程・会場と議題を列記する。

○編纂専門委員会(第三回)…十一月一日、一三時半～一六時半、大隈記念タワー三〇一会議室にて開催。出席者は五名。

・協議事項―「1. 『早稲田大学百五十年史』第1巻の構成の件」「2. ウェブサイトの件」。

・報告事項―「1. 2014年度百五十年史編纂専門委員会(第2回)の報告の件」「2. 資料調査・収集状況の件」

「3. 理事会・評議員会・維持員会資料目録化状況の件」「4. 戦争犠牲者及び戦争体験聞き取り調査の件」「5. 早稲田大学百五十年史編纂室(仮称)の件」。

○編纂委員会(第三回)…十二月二日、一二時一〇分～一三時、大隈会館N三〇一会議室にて開催。出席者は一三名。

・協議事項―「1. 編纂日程に関する件」「2. 編集・執筆方針に関する件」「3. 編集体制に関する件」「『早稲田大学百五十年史』第1巻の構成に関する件」「5. ウェブサイトに関する件」。

・報告事項―「1. 早稲田大学百五十年史編纂委員に関する件」「2. 早稲田大学百五十年史編纂専門委員会の報告に関する件」「3. 資料調査・収集状況に関する件」「4. 理事会・評議員会・維持員会資料目録化状況に関する件」「5. ウェブサイトに関する件」。

○編纂専門委員会(第四回)…二月二五日、一四時～一五時半、大隈記念タワー三〇一会議室にて開催。出席者は六名。

・協議事項―「1. 『早稲田大学百五十年史』第1巻の構成の件」「2. 編集体制の件」「3. ウェブサイトの件」。

・報告事項―「1. 資料調査・収集状況の件」「2. 理事会・評議員会・維持員会資料目録化状況の件」「3. 戦争犠牲者及び戦争体験聞き取り調査の件」。

## (二) 議論の内容

まず、編纂日程では二〇一五年度を起点に二〇二〇年度に第一巻、二〇二六年度に第二巻、二〇三二年度に第三巻を刊行するという六年刻みの計画が提案され、編纂委員会で承認された。

編集体制については、既に前年度の編纂委員会で、編纂業務全体の調整と会議運営などの事務・庶務を助手(二名)、主として出版企画と教育業務を助教(二名)、主として資料調査の推進業務を常勤嘱託(二名)、第一巻の調査・編集業務(執筆を含む)を非常勤嘱託(二名)、第二巻の調査・編集業務を同じく非常勤嘱託(二名)、データベース化とWeb公開の業務を非常勤嘱託(二名)が担当する計八名の体制が承認されている。その上で、今回、その詳細が協議された。また、新任スタッフの人は公募のうえ選考することがあわせて確認された。

編集・執筆方針では「質的レベルの高い密度の濃い年史をつくる」との基本方針のもと、「1. 個別的な事例やエピソードなども組み込んだ体系的・系統的な編集・執筆をめざす。」「2. 新たな研究成果の反映や新資料の活用に向け、研究をふまえて編集・執筆する。」「3. 単なる制度史に偏しないよう注意し、読みやすさを念頭において編集・執筆する。」「4. 一面的・一方的な評価にならないよう注意し、適正・公正な編集・執筆に心がける。」「5. 過去を未来に生かすべく、否定的側面も含めたバランスある編集・執筆に心がける。」の五つの方針が提案され、いずれも編纂委員会で承認された。

叙述の内容では、第一巻について、事務局から三部構成の(A案)、四部構成の(B案)が提案された。これに対し、協議では(B案)の方がわかりやすいとした上で、継続的な検討課題が種々提起された。構成上の問題では、事務局提出の案はテーマ別の構成を選択した結果、同じ時代の同じ内容が複数の章に分かれてしまうといった問題が生じていることが指摘され、また、学生の研究会・スポーツ・社会活動や女子学生、附属学校・研究所の位置づけについて

も、なお、検討の余地があるとされた。他にも、第一部の「文明化と「国民国家」形成」というタイトルの妥当性や、法律学科の成立の項目を設けるべきこと等が指摘された。また、グローバル化する状況にかんがみ、世界に出て活躍した卒業生を重視すべきことや、教員だけでなく職員の働きも適切に取り上げるべきことなどが提案された。他方で、「アジアからの留学生」のように、資料上、執筆の困難が予想される項目があることも指摘された。最終的に、いずれの課題も紙幅の問題を考慮しつつ検討を重ね、書き手が決まっていらない現段階では、なお流動性を残しておくのが妥当であるとの結論に至った。

資料収集については、学術院所蔵資料の調査方法等が協議された。また、理事会・評議員会・維持員会資料の目録については大学本部においても利便性が高いとの意見も出された。二〇一五年度に開始予定の大学関係者聞き取り調査については、『百年史』段階で行ったデータの活用方法や、聞き取りと合わせて話者の所蔵資料を調査する必要性等が協議された。また、聞き取り調査には専門委員の協力も仰ぐ旨、打診された。

ウェブサイトについては『百五十年史』公式ウェブサイトの開設について提案があり、承認された。その上で、Web版『早稲田大学百五十年史』資料編として、『早稲田大学百年史』（PDF版）「学科配当関係資料」「学校設置関係資料」「大学刊行物」「創設者関係資料」「式辞、祝辞関連資料」などを公開し、あわせて、現在、大学史資料センターホームページ上で公開中の関連データベースを移行していく旨、説明があった。

また、『百五十年史』の電子書籍化が検討されていることに関連して、本文と映像・音声をリンクさせるなど新たな技術を活用することが提起され、情報科学系の専門家の協力を仰ぐこと等も話し合われた。

## (三) その他の事項

右記の議題の他に、編纂専門委員会（第四回）では二〇一五年度の予算について協議がなされた。また、懇談事項としては龍泰寺（佐賀市）の襖から大隈重信の葬儀関連資料が発見され大隈記念館に寄贈の運びとなったことなどが報告された。

## 二 二〇一五年度前期の状況

## (一) 議題・会場・日程

二〇一五年度前期（二〇一五年四月～一〇月）も編纂委員会が一回、編纂専門委員会が二回行われた。再び、各回の日程・会場・議題を列記する。

○編纂専門委員会（第一回）…六月三日、一二時一〇分～一三時、大隈会館N二〇四会議室にて開催。出席者は五名。

・協議事項―「1. 『早稲田大学百五十年史』第1巻の構成の件」「2. 編集体制の件」「3. 編纂スケジュールの件」「4. 大学関係者聞き取り調査の件」。

・報告事項―「1. 資料調査・収集状況の件」「2. 法人会議資料目録化状況の件」「3. Web版資料集の件」。

○編纂委員会（第一回）…六月二四日、一二時一〇分～一三時二〇分、大隈会館N三〇一会議室にて開催。出席者は一名。

・協議事項―「1. 『早稲田大学百五十年史』第1巻の構成に関する件」「2. 編集体制に関する件」「3. 編纂日程に関する件」「4. 大学関係者聞き取り調査に関する件」。

・報告事項―「1. 早稲田大学百五十年史編纂専門委員会の報告に関する件」「2. 資料調査・収集状況に関する件」「3. 法人会議資料目録化状況に関する件」「4. Web版資料集に関する件」。

○編纂専門委員会(第二回)・九月一八日、一一時～一三時、二号館津田記念室にて開催。出席者は五名。

・協議事項―「1. 『早稲田大学百五十年史』第1巻の構成の件」「2. 大学関係者聞き取り調査の件」「3. 『早稲田大学大学史セミナー』(仮称)の件」「4. Web版資料集の件」。

・報告事項―「1. 編集体制及び編纂日程の件」「2. 資料調査・収集状況の件」「3. 法人会議資料目録化状況の件」「4. Web版資料集の件」「5. 予算執行状況の件」。

## (二) 議論の内容

編纂日程では、昨今の雇用状況と早期の成果公開が求められている状況にかんがみ、六年単位とした編纂日程を五年単位に繰り上げ、二〇一九年度に第一巻、二〇二四年度に第二巻、二〇二九年度に第三巻を刊行し、二〇二九年度から二〇三三年度までは学生向け冊子・写真集・DVD等、関連出版物の編纂・刊行にあてるとの計画が提案された。これについては、叙述する年度の下限を繰り上げることになる等、日程短縮により生じる問題が指摘された。また、『百年史』以後の時期を対象とする第三巻については、第一巻、第二巻と並行して準備を進め、日程短縮に対応することが確認された。以上の議論を経て編纂委員会で承認された。

編集体制については四月より担当助手の就任と常勤嘱託の交代があったこと、八月より新たに第二巻編集担当の非常勤嘱託(一名)が加わったことが報告された。また、調査推進体制として常勤嘱託を中心とする学内資料調査グループ(四名)、助手を中心とする「関係者ヒアリング・グループ」(四名)、助教を中心とする「戦争関係調査グループ」(四

名)を編成することが提案され、編纂委員会で承認された。他に、専門委員が執筆グループに加わる際の措置について、協議がなされた。

叙述の内容では、第一巻について、主に章・節タイトルの文言が議論された。「〜と早稲田」というタイトルが多過ぎる、章と節でタイトルが重複している部分がある等、現行案の問題点が指摘されるとともに、「早稲田大学」「早稲田」「大学」「学苑」等の用語の使い分けやカッコのつけ方などについて、基準を明確にする必要性が指摘された。なお、編纂委員会では、『百年史』及び『百五十年史』の著作権の帰属が話題にのぼり、著作権は大学に帰属すること、文責も執筆担当者ではなく、大学ないし編纂委員会が負うことが確認された。

資料収集については、継続して学内資料の収集を進めていることが報告された。これに関連して、中国第二歴史档案馆で調査を行った委員から、同館に戦時中の早稲田大学留学生の資料が所蔵されていたとの報告があり、海外での資料調査の必要性も提起された。大学関係者聞き取り調査については、今秋を目途に開始することで承認された。聞き取り対象者は「総長・理事経験者」「教務部長・学生部長・学術院長経験者」「その他関係者(女性教職員・特定事項のキーパーソン・校友等)」の中から選定を進めるとの方針が示された。これについて、学部や研究科の再編に中心的役割を果たした教職員への調査を優先的に実施すべきことや、女性教職員・留学生への調査も重要であるとの意見が出されるとともに、新キャンパスの土地取得の問題など聞き取りの中心的なテーマについても協議が行われた。調査方法については、事前に質問事項を整理して話者との調整を進めておく必要があること、学術院関係の調査は別途調整を行い、協力体制を構築していく必要があることが確認された。

Web版資料集についても調査・公開の進捗状況が報告された。これに関連して、人名データベースの「主な著作」から国会図書館近代デジタルライブラリーへのリンクを貼れば利便性が向上するとの意見が出され、対応を検討する

こととなった。

なお、今年度から『百五十年史』編纂について、スタッフの知識を深めるとともに、編纂事業に対する本学教職員の意識・関心を高めることを目的として「早稲田大学大学史セミナー」を開始することが提案された。専門委員会では、学内の他機関や関連するゼミとの共催も講じること、様々な広報媒体を積極的に活用すべきであること等が提案された。

### (三) その他の事項

予算について引き続き協議が進められた。また、専門委員会では、来年度、委員の交替が生じる見込みであること、今後、編纂委員会にはかり手続きをとることが確認された。

### おわりに

二〇一五年一〇月、九九号館(STEP21)六階に早稲田大学百五十年史編纂室が開設された。また、同月から新たに第一巻の調査・編集業務を担当する非常勤嘱託二名も加わり、百五十年史編纂の陣容は整いつつある。今後は速やかな事業の推進をはかり、短縮された編纂日程に即応していくことが課題となる。